

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成24年10月5日（金）
 児 童 5年1組 男子13名 女子10名（5校時）
 5年2組 男子13名 女子11名（6校時）
 指導者 大崎 歩美
 細川 淳平

- 1 単元名 作品を自分なりにとらえ、朗読しよう
 教材名 「大造じいさんとガン」

2 単元を貫いて位置付ける言語活動とその説明

単元を貫いて位置付ける言語活動	第5学年 「読むこと」(2)ア、エ 「思いを声にのせて！朗読CDを作って全校に聞かせよう。」
言語活動の説明	読みの視点をもとに朗読の表現方法についての工夫を考え、グループ毎に朗読したものをCDに録音する。 <情報解釈力に関わって> 登場人物の心情や場面の様子について、優れた叙述を基にしながら読み取り、教材文の内容を理解することで、自分なりの表現につなげることができる。 <自己活用力に関わって> 読みの視点をもとに、自分なりに解釈したことを相手に伝えられるように、朗読の表現方法を考えることができる。
必要とされる知識・技能	①朗読の意味 ②朗読に必要な読み取り（擬音、擬態、比喩、会話、行動、心情描写、情景描写から）③朗読表現の工夫

3 単元について

(1) 児童について

子どもたちはこれまで「読むこと」の音読の学習において、場面の様子や、人物の気持ちが表れる音読を意識して取り組んできた。「あめ玉」では、自分が物語を読んで考えたこと、感じたことを工夫しながら音読発表会を行った。登場人物の驚きや恐怖感などを作品の面白さととらえ、それを聞き手に伝えることを意識して音読することができた。文学的文章の学習においては「のどがかわいた」で登場人物の関係の深まりや心情の変化を読む学習をした。主人公であるイタマルのミッキーに対する気持ちの変容を捉え、自分の経験を重ね合わせながら感想をまとめる活動を行った。その際特に視点として取り上げたのは、人物の会話と行動である。イタマルとミッキーの関係を、お互いの会話の内容や接し方から、自身の経験を重ねて考えたり想像したりすることによって相互関係を捉えることができた。

上記のような力を身に付けてきた子どもたちに次に身に付けさせたいのは、人物の心情や場面についての描写を捉える力である。ここでは、その力を身に付けさせるための言語活動として朗読を位置付ける。朗読は、自分なりの考えをもちながら表現に生かす読み方で、児童は今回初めて出会う読み方である。朗読をするために必要になってくる直接描かれていない人物の深い心情を行動や会話、情景描写から読み取る力は学習経験として不足しており、十分とは言えないのが子どもたちの実態である。

【身に付けさせたい力】

- 人物の心情や場面についての描写を捉える力。

(2) 教材について

第5学年及び、第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。

本教材には美しい情景や比喩表現、色彩を表す豊かな表現が用いられており、それらが主人公である大造じいさんの心情と密接にかかわりながら作品の世界を彩っている。情景描写は登場人物相互の関係や、人物の内面や、場面の世界観を暗示的に表現しているものである。また、それらの描写が「動物」と「狩人」との生存のための厳しい戦いに緊迫感を与えるとともに、それらを通して、美しいものや感動すべきものに素直に心を動かしている大造じいさんの人間味あふれる姿を生き生きと表している。

このように情景描写を巧みに用いている本教材は、優れた叙述をもとに読み取る力を育てるのに適した教材であるといえる。

(3) 指導にあたって

児童の実態や教材の特性から本単元で子どもたちに身に付けさせたい力を、「人物の心情や場面についての描写を捉える力」と考えた。

本教材は、大造じいさんや残雪の行動を細かく巧みに描写しているだけでなく、それぞれの場面で用いられている表現（情景描写、比喩表現、色彩を表す豊かな表現）には人物の心情を暗示する要素が含まれている。特にも、秋の空や日の光などで表した豊かな情景描写は大造じいさんの意気込みや期待を表現している。大造じいさんの残雪に対する心情の変容について、これらの描写を視点に読み取り、それに応じた朗読表現の工夫を考えることで、より大造じいさんと残雪との心の結びつきを味わうことができる。

第一次で朗読CDを作ることを知らせ、「全校に聞かせる」という相手意識をもたせるとともに、いつでもどこでも誰にでも聞かせることができる形として残すことでの意欲付けを図る。また、朗読をするにあたり必要なことをしっかりと押さえたい。

第二次では、おおまかな場面の構成を捉えてから、人物の言葉、行動以外にも情景描写に着目し、優れた叙述を意識しながら人物の心情や場面の様子を自分なりの考えをもちながら読み進めるよう指導していく。朗読したい場面を選びその中で優れた叙述に着目させ、朗読シートを用いて、自分なりの読み取り・朗読の工夫を考える時間を個人やグループでもちたい。

第三次では、グループ毎に、前時までに考えた工夫で朗読しCD録音を行う。中間発表会を経て、それぞれの読み取りや表現の工夫を知る。感想や意見を出し合いながら考えを深め、自分の読みにつなげたい。

これらの点に留意しながら指導することにより、子どもたちに「人物の心情や場面についての描写をとらえる力」が付くものと考えられる。

4 単元の指導目標

◎登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 「読むこと」(2)エ

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・優れた叙述に関心を持ち、読み取ったことを自分の表現に生かそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめている。(2)エ 	<ul style="list-style-type: none"> ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて意識して文章を読んでいる。(1)イ(カ) ・比喩などの表現上の特色について理解している。(1)イ(ケ)

6 指導計画及び評価規準 (「読むこと」 10時間)

次	時	学習活動	□評価規準 ◇身に付ける知識・技能	身に付けさせたい力とそ のために用いる手立て				
				課 題 設 定 力	資 料 活 用 力	情 報 解 釈 力	自 己 活 用 力	相 互 交 流 力
一	1 ・ 2	○朗読 CD を聞かせ、朗読について知る。 ○朗読 CD を作るために必要なことを把握する。 ○教師の音読で、初発の感想を書き交流する。 ○「大造じいさんとガン」の朗読 CD を作るまでの学習計画を立てる。	□学習の見通しをもち、CD制作に向けて意欲的に取り組もうとしている。【関】 (感想、観察、ワークシート) ◇ ①朗読の意味 音読との違いを考え必要な要素を捉える。	○初発の感想 ○課題把握、学習計画				
二	3	○場面の構成(設定、展開、山場、結末)や登場人物相互の関係など、作品全体のあらましをつかむ。	□登場人物の相互関係や場面の移り変わりを明確にしながらかんでいる。【読】 (ワークシート、観察)	○言葉の文中における役割、言葉の抽出、記述する時間と場の設定				○交流の視点や目的の明確化
	4	○場面1を用いて、学級全体で朗読の工夫及びその理由を考える。	□文章を朗読するために、登場人物の心情や行動、情景描写に注意して読み、内容の理解を深めている。【読】(朗読シート)					
	5	○朗読の工夫を考える方法を確認する。 ○好きな場面を選び、その場面の朗読の表現を個人で考える。	◇ ②朗読に必要な読み取り(擬音、擬態、比喩、会話、行動、心情描写、情景描写から) ③朗読表現の工夫					
	6 本 時	○グループで朗読の表現の仕方を考える。	□登場人物の心情、情景描写や優れた叙述について自分の考えをまとめている。【読】 ◇ ②朗読に必要な読み取り ③朗読表現の工夫					
三	7 本 時	○中間発表会を行い、お互いのグループで意見交流をする。	□自分の考えや表現を広げたりするという目的をもって朗読発表会に取り組んでいる。【関】 □他のグループの発表や感想・意見をもとに、人物の心情や場面の描写、効果的な表現について、自分の考えを深めている。【読】	○蓄積活用				○文中の言葉を根拠
	8	○朗読発表会をして感想を伝え合う。(録音) ○学習を振り返りまとめをする。	◇ ②朗読に必要な読み取り ③朗読表現の工夫					

7 本時の指導（5年2組 第二次第6時）

- (1) 本時の目標 朗読の工夫をするために、登場人物の心情や情景描写などの優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
- (2) 本校の研究に関わって
 情報解釈力 「教材文を課題に即して詳しく読み、書かれている意味や内容、構造、意図などを把握する力」



高学年 「文章の構成や表現の意図に着目して読み取りができる。」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 3分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を把握する。 お気に入りの場面の朗読の工夫をグループで交流し、考えをまとめよう。	・朗読の工夫を考えるとときに人物の会話、行動、情景描写などから考えられるということを想起させる。
ふかめる 35分	3 音読をする。 4 朗読シートに記述している朗読の工夫をグループで交流する。 ○「グループごとに朗読の工夫を交流しましょう」 (話し合いの視点) ・文中の言葉を根拠に大造じいさんの心情や場面の様子を適切に読み取っているか。 ・大造じいさんの心情や場面の様子がより伝わる朗読の工夫になっているか。 5 グループの考えをもとに、自分の分担箇所の朗読の仕方を再考する。 6 確かめの朗読を行う。	・前時に考えた、自分なりの朗読の工夫を意識させながら音読をさせる。 ・同じ場面を選んだ児童でグループを組み交流させる。 ・文中から読み取れる大造じいさんの心情や場面の描写がよく伝わるような朗読の表現を考えているかどうかについて交流を行わせる。【言葉の文中における役割】 ・自分が考えた工夫について説明するだけでなく、お互いに質問や意見を行い、考えの精選を行うことでグループとしての考えを一枚の朗読シートにまとめていく。 ・活動が停滞しているグループには1の場面で扱った文中の表現を想起させ朗読の表現方法を考えるための観点を与える。 ・自分があらかじめ考えていた内容と区別させるために、交流後に考えたことは赤で記述させる。 ・グループの考えをもとに、自分の思いや考えを明確にし、どのような朗読の仕方が良いかを考え決定する。
まとめる 5分	7 本時の学習の振り返りをする。 8 次時の学習内容をつかむ。	・振り返りの視点は、交流を通して自分の考えが変わったり確かめられたりしたこと。 ・今日学んだことを、次の学習にどう生かすか。 ・次時は今日の話し合いをもとに、グループごとに朗読の中間発表会を行うことを伝える。

(4) 本時の評価規準

朗読の工夫をするために、登場人物の心情や情景描写などの、優れた叙述について自分の考えをまとめている。【読エ】

8 本時の指導（5年1組 第三次第7時）

- (1) 本時の目標 他のグループの発表や感想・意見をもとに、人物の心情や場面の描写、効果的な表現について、自分の考えを深めることができる。
- (2) 本校の研究に関わって
 自己活用力 「読み取ったことに自分の思いや考え、生活経験などを加えて目的や課題を達成する形にまとめる力」



高学年 「読み取ったことや収集した情報を整理して、課題に合った形にまとめる力」

(3) 本時の指導

	学習活動、発問 (○)	指導上の留意点 (・) 手立て【 】
つかむ 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を把握する。 朗読を聞き合い、よりよい工夫を目指して感想や意見を伝え合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 前時はグループで朗読の工夫について考え、朗読シートを作成し、実際に声に出して朗読したことを確認する。 本時は、グループ毎に朗読の中間発表をして、他のグループの工夫を知り、感想や意見を伝え合うことで自分たちの工夫に生かす時間であることを確認する。
ふかめる 35分	3 朗読の中間発表会をして感想や意見を交流し合う。 ・グループで前時に考えた朗読の工夫について確認の読みをする。 ○「朗読シートを見ながら、朗読を聞き合い、感想や意見を書きましょう。」 ○「付箋に書いた感想や意見をグループでまとめ、他のグループに伝えましょう。」 ○「他のグループからの意見を整理して、よりよい工夫になるよう考えましょう。」	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表の準備として、一度声に出してグループで確認の読みをさせる。 朗読シートを見ながら朗読を聞き、大造じいさんの心情や場面の様子をどのようにとらえ工夫しているかについて感想、意見を付箋に書かせる。 視点は、「自分と同じ考え」「自分も取り入れたい考え」「自分だったらこう読みたい」根拠を明らかにしながら書かせる。 自分の考えを書いた付箋を他のグループの朗読シートに貼り、自分たちの意見を伝えさせる。 他のグループの付箋をもとに、グループ全員でよりよい工夫になるよう意見を整理し、自分たちの読みにつなげさせる。 【蓄積したことの活用】
まとめる 5分	4 まとめの朗読をする。 5 学習を振り返る。 6 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループからの感想や意見から学んだこと、考えたこと。 他のグループの工夫から新たにわかったこと、気づいたこと。 次時は、CD録音本番であることを確認する。

(4) 本時の評価規準

他のグループの発表を聞いて感想や意見を伝え合い、人物の心情や場面の描写について効果的な表現を理解しながら、考えを深めている。【読エ】